

九谷焼のイノベーションと世界での評価

株式会社ヨシタデザインプランニング
基礎デザイン平面構成の授業担当 葭田 護 氏



講師を受ける前に関係者から、九谷焼の歴史はイノベーションの歴史であると聞いたことがある。江戸時代の古九谷の五彩、赤の細密描法、明治から九谷庄三を中心に金彩と赤絵のジャパン・クタンとして彩色金襴手作品を欧米向けに制作され、さらに明治昭和からの青粒や盛りの技法が編み出され、その時代だけを切り取ると、どれが九谷の作風かといえど定義しがたい。これはまさに変化を繰り返してきたイノベーションの歴史である。



3年ほど前から江戸前期から明治後期までの九谷焼の名品の柄をあしらった紙皿を販売する機会を得たが、手に取った方から九谷焼の美術性に関して予想以上の高い関心が得られた。これは普段触れることができない歴史的美術品を手にする疑似体験を気軽にできるものとして特に外国人からの評価が高かった。手にとったフランス人が「これは九谷ですか？」と言い当てるのである。むしろ日本人よりも日本の伝統文化に興味を持っており、KUTANIは世界ブランドであることを認識させられた。

グローバルズムが進展するなかで、日本の魅力は量ではなく質であることに気づく。その質とは繊細な感性や個性にある。感性を表現することの手段として九谷焼というプラットフォームがあるが、その概念は今後よりボーダレスなものになってくるかもしれない。美術品としての九谷、食器としての九谷、ファッションとしての九谷、AIやメタバースの九谷と多様なジャンルにアンテナを張ることも必要かもしれない。いずれにしても時代を騒がせ、業界を変え、新しい表現を開拓していくKUTANIであり続けてほしい。

講師紹介

【課題と思い】 研修所講師 成形実習（ロクロ）担当 山本 高寛 氏



九谷焼技術研修所・・・私にとっては正直あまり関わりのなかった施設である。2年前に講師としての話を頂いた時、率直に「私ですか？」“なぜ”と思ったのと同時に一介の轆轤職人でしかない自分に果たして務まるのか？と、沢山の方々に相談した事を思い出します。後押しもあって講師としてスタートしましたが、様々な課題があるなど感じました。

1. 現場と学校との違い

人に教えてもらうというよりは師匠や兄弟子の作りを見て覚えた時代の人間にとってはこれほど手取り足取り、身振り手振りで教える事の難しさは頭の切り替えが必要だと思いました。

2. ポイントと質問

形を作る過程で多少の個人差は必ずあるもの。ですので私は必ずしも図面通りでなくとも、各課題に3～5ポイントを設定し、ポイントの重要性を話し繰り返す事で少しずつ上達すると生徒には教えました。失敗や、うまくいかない事は成功にはなくてはならない最大の近道なので、まず自分で考える力と、学校という利点として技術や知識は、“知ってる”のと、“知らない”のでは大きな差ができます。なので質問はどんどんしなさいと教えました。

3. 粘土の重要性

轆轤をクルクル回して形を作るのは何年かやれば誰でもある程度はできるようにはなるが、そもそもその粘土がなければ話にならない。九谷と名を出すならば尚更、地元産の原料が必須であろうと私は思う。九谷では2社の製土所さんが頑張って我々作り手を支えてくれているが、その重要性を今一度、考え、噛みしめて寄り添わなくてはなるまい。

いろいろな課題や思いをあげればキリがないが、一人一人、一つ一つクリアして、自分なりに生徒と接し楽しめればと思う。最後にはなりますが、素地というのはある意味キャンバスです。そのキャンバスの重要性と自分自身に誇りを持って日々の制作と講師としての責任を改めて全うしていきたいと思えます。そしていつか、自分と少しでも関わった生徒の中からとんでもないバケモノ級の逸材が育ち、でてくる事を楽しみに！

【研修所は学びの場】 研修所講師 上絵付け実習 担当 糠川 孝之 氏



研修所で「上絵基礎」の授業を2年前から担当しています。にかわ液やふのりの作り方ははじめ、呉須や和絵具そして筆の扱い方など九谷上絵での基礎となる重要な授業だと考えています。「知識」だけを教えるのは簡単ですが、筆先や手から伝える「感覚」を見覚えることがとても大事で、指導する立場として具象化できないその感覚を伝える難しさに苦労しながらも、楽しく指導させて頂いています。

そんな中、私が指導した研修生たちが今春、卒業を迎えます。就職する研修生、研究科へ進学する研修生、自らの力で陶道を突き進む者、同じ九谷焼を志す者として指導者だけでなく同志になることが嬉しくそして誇らしく感じます。この2年間でどのように学び、どんな感覚を身に付け、どう表現できるようになったのか、卒業制作を拝見することがとても楽しみです。

物を作り出すには「インプット・ブラッシュアップ・アウトプット」が常に関わってきます。固定観念にとらわれない発想力豊かな研修生たちと関わることで、新たな発見や思いもよらない発想、時には異次元な質問もあり、自分自身にはとても良い刺激になってます。研修所で学んでいた自分を振り返りながら、この年齢になっても研修所は常に学ぶ場だと改めて感じています。

のび 「市長と能ん美リカフェトーク」

井出敏朗市長と研修生5名が普段の生活や、九谷焼の将来、研修所卒業後の産地での就職などの課題について和やかな雰囲気の中、語り合いました。



業界交流会の開催

九谷焼技術研修所では、九谷焼事業者（企業）に研修所への理解を深めてもらうとともに、今後の連携を図るため、研修現場の見学と研修生が課題の成果品を展示し、求人に関わる交流の場を設けています。



研修生 在籍数

(令和5年3月現在)

【研修生】

- ・本科1年生 …13名
- ・本科2年生 …12名
- ・研究科生 …… 9名
- ・実習科生 ……18名

“業界への新たな仲間入り”

【令和4年度 卒業生の進路】

- ・工房（成形・加飾） … 4名
- ・窯元・問屋 …………… 6名
- ・陶芸関係 …………… 7名

◎産地の主な組合を紹介します。

産地には下表の主な組合以外にも、九谷焼技術保存会、九谷焼伝統工芸士会などの組合・団体が活動しています。

協 同 組 合 名 称	理 事 長
石川県九谷陶磁器商工業（協）連合会	鏑 木 基 由
石川県陶磁器商工業（協）	岩 田 克 久
石川県九谷窯元工業（協）	三 田 英 則
九谷上絵（協）	宮 本 暁
小松九谷工業（協）	宮 本 雅 夫
金沢九谷振興（協）	片 岡 保 二
加賀九谷陶磁器（協）	山 本 篤

研修所からのご案内・企画の紹介



デザイン支援事業参加者募集

九谷焼技術研修所では人材の育成とともに、現代生活に調和した商品開発の指導を行うことを運営の柱としています。商品開発に意欲のある皆様の参加をお待ちしております。

- ・実施期間：令和5年5月～令和6年3月
- ・参加費：7,000円
- ・申し込み：4月中旬締切

*詳細は九谷焼技術研修所までご連絡下さい。



「オープンキャンパス」開催のご案内

日時：令和5年8月27日(日) 10:00～16:00

内容：所内見学、個別進学相談、研修生の実習現場の見学、上絵付け体験、課題作品の展示等、内容盛り沢山です。



編集後記

関係者のご協力のもと第10号を発行することができました。ここに紙面を借りてご執筆いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

「研修所通信 NO.10」

発行：令和5年3月

編集：石川県立九谷焼技術研修所

能美市泉台町南2番地

T E L 0761-57-3340 F A X 0761-57-3342

<https://www.pref.ishikawa.jp/kutanike/>

